



目白研心中学校・高等学校

令和5年度 同窓会会報 新版第1号

— 目白学園創立100周年記念号 —



新たな時代に 向かって



会長 稲葉 典恵

目白学園創立100周年誠におめでとうございます。長かった新型コロナ感染拡大による様々な制限もだんだんと解除され、以前の生活が少しずつ戻ってまいりました。今年は卒業式も入学式も来賓や保護者が参列し、生徒の皆様の顔も一段と輝いていたように感じます。皆様お元気でしょうか。

大正12年に創立された目白学園も、本年はいよいよ創立100周年を迎えます。一言で100周年と申しましても様々な困難な時代を乗り越えられたご苦労も多い日々であったと思います。最も大変だったのは太平洋戦争ではないでしょうか。その頃の先輩の方々は、戦争が激しくなり学びたくても授業がなくなり、軍需工場へ勤労働員に行かされたり、疎開しなくてはならなかったり、終戦直前は卒業式も挙行されず、卒業証書がいただけなかったりと、それはそれは大変な時代を過ごされたとお聞きしております。

目白学園の歴史は男子校研心学園に始まり男子目白商業、女子目白商業、目白学園、そして共学校の目白研心へと歴史を積み重ねてまいりました。

その歴史の中で同窓会は、戦後の昭和32年に発足されました。その頃はすでに女子校ではありましたが男子目白商業時代の先輩が中心となり奔走していただき、母校に同窓会を発足していただきました。当時の会報を読み返しますと、会報を発行するにも資金不足だったり先輩役員のご苦労が伺えます。そのような困難を乗り越えられて今の同窓会がある事を思いますと、偉大な功績を残していただきました当時の諸先輩の方々に感謝してもしきれない気持ちで一杯になります。

本年の会報は100周年記念号になりますため『時代をつなぐ目白の絆』として男子目白商業時代の杉木様、目白学園昭和時代の茂木様、目白研心平成時代の森下様、目白研心令和時代の石井様と様々な時代に青春時代を過ごしてこられた同窓

生の方にお便りを書いていただいております。先輩から後輩へと目白の絆をつなぐ記念号ならではの心動かされる記事になっております。

また今号では目白学園の歴史や同窓会の歴史もまとめました。懐かしい写真も掲載してございます。当時の思い出が蘇ってこられる事と思います。

ここで皆様にお知らせがございます。昭和38年の創刊号から令和4年まで合計31号まで発行してきました会報ですが、途中号数が抜けてしまっていたり、号数がダブってしまったことがありました。そこでこの100周年を節目として発足時の先輩の情熱を思い起こし、新しい時代へ進んでいくという意味を込め、この会報から新たに新版第1号としてスタートしていきたいと思っております。

会報の表紙は私達の後輩になります、中学校・高等学校写真部の在校生の皆さんが撮影協力してくださいました。記念号の顔となる表紙にふさわしい素敵なお写真です。

目白研心の校長先生として在任期間が歴史上一番長く、多大な功績を残されました松下秀房先生が退職をされ、本年度から吉田直子先生が新たな校長に就任されました。佐藤フユ先生に続く歴代2代目の女性の校長先生でございます。同窓会としてしっかりと連携を強化し、学校と協力しながら進んでまいりたいと思っております。

またこの会報に、目白学園の一時代を築いてこられた元理事長の佐藤弘毅先生が「特別寄稿」をお寄せくださいました。名誉会長として長年同窓会をお支えくださった先生に、学園の歴史や同窓会の思い出について語って頂きたいと強くお願いし、念願叶いご執筆いただきました。目白学園の歴史や創立者重遠先生の志、目白研心の学校名の由来や同窓会のエピソードなど先生だからこそ語って頂ける感動的な内容となっております。

結びに、尾崎理事長はじめ、吉田校長、歴代の校長であります香川先生、松本先生、野中先生、松下先生、さらに大学同窓会会長渡辺様、短期大学部校友会会長矢口様、歴代同窓会長の鹿内様、田中様など多くの方々よりご挨拶をいただきました。この100周年記念号の為に本当に沢山の方々にご尽力いただきました事、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました！

今後も同窓会にご協力、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

目白学園創立百周年を 迎えて



学校法人目白学園理事長 尾崎 春樹

暑い夏を目前に控えて、同窓生の皆さまは、お変わりなくお過ごしでしょうか。

学校法人目白学園は、1923年（大正12年）に、佐藤重遠・フユゴ夫妻によって研心学園として設立され、本年で創立百周年を迎えました。研心学園は、その後、目白商業学校（男子校）、目白女子商業学校、目白学園中学校・高等学校（女子校）等の変遷を経て、2009年に男女共学制を導入して現在の姿となったわけですから、目白学園の百年の歴史は、すなわち目白研心中学校、高等学校の歴史ということになります。

そして、学校が、その伝統の永さを誇るだけでなく、近年は、明るく開放的なキャンパス環境のもと、生徒の皆さんが自ら選択したコースごとに、先生方の熱心な指導を受けながら、充実した学習を展開し、進学実績を著しく向上させています。また、学習に限らず、全生徒がクラブ活動に参加し、明るく豊かなキャンパスライフを送るとともに、学園に活力を与えています。

その評判が世間にも伝わったのでしょうか、近年は、目白研心中学校、高等学校の志願倍率が上昇してきたため、目白大学と調整して、大学で使用してきた校舎の一部を目白研心で使用することとして、教室の拡張を図り、できるだ

け生徒を受け入れる対策を取ってきたところで、現在の在籍生徒数は、中高合わせて1000人を超え、これは10年前の1.5倍に達しています。

また、この3年間、我々を悩ませてきた新型コロナウイルスの流行が、一応の落ち着きを見せつつあり、学校生活も、通常の状態を取り戻して、生徒たちの元気な声を身近で聞くことができるようになりました。おかげで、卒業式と入学式を対面で挙行することができましたし、私も、式に立ち会い、激励のメッセージを伝える機会を得ました。また、つい先日、代々木体育館で行われた運動会では、生徒の皆さんの爆発するエネルギーを肌で感じ、とてもワクワクさせられたところです。

少子高齢化の急速な進展や高度情報化社会への対応を見据えて、現在、思考力、判断力や情報活用能力を培うための新しいカリキュラムへの取組が全国的に進められています。目白研心中学校、高等学校においても、生徒全員がiPadを所持して、家庭学習と学校での学びを連携させてその活用に取り組んだり、同級生や様々な人たちとの対話を通じて学びを深めたりするとともに、様々な課題に挑戦し、その解決能力を育む実践を進めているところです。

目白研心中学校、高等学校は、学園創立百周年を契機として、建学の精神「主・師・親」すなわち「国家・社会への主体的な貢献、自分を導いてくれる人とともに積極的に学ぶ姿勢、自分を支えてくれる人々への感謝の気持ち」を大切にしながら、生徒一人ひとりの資質能力に磨きをかけて送り出す努力を続け、今後新たな歴史を刻むべく、力強い歩みを続けてまいります。

同窓会の皆様、教職員、生徒の皆さんそろって、学園創立百周年を喜びをもって迎えるとともに、同窓会の皆さまに今後とも母校をお支えいただければ、これに勝る喜びはありません。よろしくご願ひ申し上げます。

創立 100 周年、 そして未来へ



校長 吉田 直子

同窓会の皆さま、本年度より校長を拝命しました吉田直子です。私は1993年12月に女子校時代の目白学園に入職し、本校での教員生活は30年目となります。よろしく願い致します。

さて、本年度は中学校に65名、高等学校に274名、計339名の新入生を迎えてスタートしました。4年ぶりに中高ともにご来賓、保護者の皆さまにもご参列いただき挙行了した入学式は、コロナ禍のトンネルをようやく抜け、創立100周年を迎える年に明るい光が差すようで、感無量の光景でした。稲葉同窓会会長にもご臨席いただき、この感動を共有できたことは大きな喜びです。また、2009年に共学化して以来初めて、高校新入生は男子の生徒数が女子の生徒数を上回りました。私は学年主任として2011年3月に女子校最後の卒業生を送り出しましたので、時代とともに変化を遂げていく本校の現在を、「これも100年の歴史的一幕である」と感慨深く受け止めております。もう一つ大きな変革として、

本年度より女子の制服に紺ブレザー・スラックス型が加わり、従来のセーラー服・白ブレ型とで選択できるようになりました。スラックス型を選択した生徒からは、「動きやすい」と好評です。

コロナ禍で我慢の連続だった3年間が終わり、本年度はすべての学校行事と実技系授業をできる限り制限なく行う予定です。授業で得る知識の積み重ねと行事や実技を通した体験的学びは学校教育の両輪ですので、生徒たちには目白研心での豊かな時間を思い切り満喫してほしいと願っています。また、都内の学校としてはおそらく最も早く、昨年度から短期留学や海外研修プログラムを再開しておりますが、本年度はカナダ1カ年留学にも生徒を送り出せることとなりました。グローバル化が進み、多様な文化や価値観を受入れ協働できる人材が求められている昨今、より良い世界を築くために最も必要なことは、若い世代に良質な教育環境を提供することだと確信しております。男女ともにしなやかで強く、力ではなくコミュニケーション力で問題を解決できる人材を育てることを目標に、教育活動を行ってまいります。

お陰様で在籍生徒数も2年連続1000人を超え、毎日校内に生徒たちの明るい声が響いています。創立100周年を機に、同窓会の皆さまにも現在の目白研心の様子を見ていただきたいと思っております。機会がありましたら是非学校まで足をお運び下さい。そして、誰よりも強力な母校のサポーターであっていただきたいと、心よりお願い申し上げます。

令和5年度総会の開催

同窓会会則第13条により「令和5年度日白研心中学校・高等学校同窓会総会」を紙上総会とさせていただきます

●令和4年度事業報告

- 4月 令和3年度決算書、令和4年度予算案作成、会計監査
- 4月 入学式（新型コロナウイルス感染対策のため縮小、同窓会より祝電を贈る）
- 4月 会報発行のため関係者、関係機関に原稿を依頼
- 5月 会報の原稿とりまとめ
- 6月2日 会報原稿を印刷会社へ入稿
- 6月 会報校正作業
- 6月7日 会報7月発行周知のためHPにアップ
- 7月12日 同窓会会報31号発送
- 7月13日 会報発送のお知らせをHPにアップ
- 7月20日 同窓会会報31号をHPにアップ（一部氏名をイニシャルに変更）
- 11月7日 HPレイアウト変更の打ち合わせ
- 11月24日 100周年会報発行のため関係者に原稿依頼
- 12月11日 同窓会定例全体役員会開催
- 12月14日 役員会の様子をHPにアップ
- 2月7日 顧問会
- 3月3日 同窓会入会式
- 3月4日 卒業式に会長参列（同窓会より記念品を贈る）
- 3月9日 入会式と卒業式の様子をHPにアップ

その他住所変更パソコン入力作業、会報に関わる作業、中学校高等学校との打合せなど、必要に応じて役員会や活動を行っております。

●令和4年度決算報告、監査報告、令和5年度予算案(同封の別紙をご参照ください)

●令和5年度活動報告

100周年記念会報発行、寄付金贈呈、HP更新、住所変更作業、その他学校と協力しながら活動してまいります。

●令和5年度役員は次の通りです

役員

会長	稲葉 典恵
副会長	中島 亮子
	平井 めぐみ
事務局長	大塚 千恵子
副事務局長	安島 利佳子
事務局	志澤 佳奈未
	蔵田 真有
	中島 佑子
	中村 莉久
会計	中島 亮子（副会長兼任）
	浜口 瞳
監査	白岩 寛子
	松本 三貴
理事	千葉 奈々
	伊藤 翔太
	石井 大翔
幹事	杉浦 皇汰
顧問	鹿内 廣子
	田中 金子

卒業生新幹事

荒船 友哉
長南 匡泉
小宮 嘉悦
白根 愛
矢部 陸人
荒井 涼花
フリアス來
宗 恵礼奈
沖野 颯太

古俣 知桜里
稲庭 陸人
佐々木 友梨亜
佐野 碧土
後藤 香乃
宇佐美 遥花
多田 雅
埴田 慈雨
大熊 彩加
佐藤 真季
津村 真佑里



令和5年度 新幹事の皆様

●卒業生新幹事の一言

宇佐美 遥花

この度、目白研心中学校・高等学校同窓会新役員のリーダーになりました。令和4年度（令和5年）卒業、元3年8組の宇佐美遥花です。

私たちの代はコロナ禍で高校生活が始まり、コロナ禍で高校生活が終わりました。

この高校3年間は我慢する日々が多く、体育祭、文化祭、林間学校、修学旅行など、たくさんの行事やイベントが中止や制限付きでの実施になってしまいました。悲しい思いや辛い思いもたくさんしてきました。

ですが、そのおかげで当たり前でできていたことも当たり前ではないということに気づくことが

できました。私たちは実施することができた行事を大切に、全力で楽しもうという気持ちで参加しました。そうしてみんなで作り上げた一つ一つの行事は濃く、最高の思い出になりました。

それも先生方が私たちのためにたくさん考えてくださったおかげです。そして楽しい高校生活を一緒に送ってくれた友達にも感謝の気持ちでいっぱいです。高校を卒業してからも目白研心で出会い、たくさんのかたちを一緒に作り上げ、乗り越えてきた先生方や友達を大切にしていきたいと思えます。

持ち前の明るさや、コミュニケーション能力を活かして、これから同窓会役員として精進していきますのでよろしく願いいたします。

特別寄稿

目白学園の百年と同窓会



学校法人目白学園 元理事長
佐藤 弘毅

「落合には坂が多い。妙正寺川の流れる低地と川の北面に広がる丘陵とを結ぶ坂だ。

「坂を登りつめ、丘の西端まで進むあたりは、一面の雑木林であった。春から初夏にかけて八重桜が咲き競い、桐が清楚な花をつけるこの地は、いつも静けさに包まれていた。

「大正十二年、ここに新たな学舎の灯が点された。名づけて「研心学園」。六年後に「目白学園」と改称される学校の創立であった。」

『目白学園 60年の歩み』という、今から40年前に配布した冊子の冒頭で、私が記した書き出しの文章です。学園は本年、より大きな節目を迎えました。

卒業生のみなさん、お変わりありませんか。

私は、昭和から平成にかけて26年間、目白学園の理事長を務めた佐藤弘毅です。毎年の入学式、卒業式には欠かさず祝辞を述べ、合唱発表会や運動会に出向いてスピーチしたことを、懐かしく思い出しております。

この度、同窓会が会報の学園創立100周年記念号を発刊するに当たり、私にまで紙面を頂き、大変光栄です。この機会に、学園一世紀の歩みと同窓会の沿革について、記憶や手元資料を辿りながら記してみましよう。しばし母校に思いを馳せて頂ければ幸いです。

母校の軌跡と創立者

目白学園の最初の学校は、1923年（大正12年）設立の研心学園ですが、更にその源流を遡ると、1918年（大正7年）に同じく佐藤重遠先生が開いた「研心館」に行きつきます。現在の豊島区雑司ヶ谷に開かれ、精神修養と武道錬磨を目的とした私塾で、2年後には学寮も併せ持つ「研心会」に発展していきました。

この実績を礎に、「士魂欧才主義」を掲げ、着実剛健な人格者の育成を目指す各種学校として、現在の新宿キャンパスに研心学園が設立されました。私塾から学校へと、規模も体制も急ぎ整えて行った志について、先生は後年、「報恩の情」と語っておられます。

先生は九州の片田舎で貧しい小作農の家に生まれ、貧窮の中であって進学など思いもよらないことでした。しかし、先生の才能を惜しんだ村の有力者の方々が協力して町の中学校に送り、さらに上京して当時最高峰の第一高等学校へ、東京帝国大学へと進学するのを支援してくれました。自分の在るのはひと様の好意と教育のお陰、この恩に報いて有為の青年を育てたい、こんな使命感で学校をつくるに至った、と語っておられました。

注目すべきことに、いずれの私塾にも学校にも、名称に「研心」の語が用いられています。これは、先生が青年時代の一時期に師事した、講道館創始者の加納治五郎氏の影響があったと思われます。ちなみに講道館では、今も身体の鍛錬と同様に精神の修養を重要な修行である、と位置づけています。

その後佐藤先生は、財団法人目白学園を設立して、研心学園に代え、念願の正規の学校として目白商業学校を設立し、1930年（昭和5年）に開校します。質実剛健にして、商才豊かな人格者の育成を目的とした、中等学校の誕生です。

ところで、実はその3年前に、先生は研心学園を「城北学園」と改め、城北学園中学校を設立する申請書を東京府に提出しています。こちらは、折からの国の深刻な不況等、厳しい事情のために、

後に取り下げられています。ちなみに、1926年(大正15年)作成の下落合の地図には、すでに「城北学園」が記されています。相当早い段階から計画が発表されていたものと思われます。

もしもこの計画が実現していたら、皆さんの母校は「城北学園」になっていたかも知れませんね。

さて、ここまでは全て男子校。この後に学園は女子校に転じます。太平洋戦争真っただ中であって、国は商業系男子校の女子校への転換を促し、学園はそれに呼応しました。1944年(昭和19年)、目白商業学校に代えて目白女子商業学校を設置、しばらくは男子校と女子校とが同居となったのです。ただし、東京府の指導によって両校舎の間は垣根で隔てられ、通学路も別の道を指定する等、今では想像もつかない時代ではありました。

終戦後、抜本的な国の改革は学校制度にも及び、中学校までが義務教育とされました。いわゆる新制中学校・高等学校の時代になります。わが学園では、1948年(昭和23年)、女子の目白学園中学校・高等学校の誕生です。その後、目白学園幼稚園と目白学園女子短期大学が設立されたのは、ご承知の通りです。

実はもう一つ、もう忘れ去られている学校が、目白学園に同居しました。いきなり多数の中学校を急増できない新宿区の委託を受けた、桐ヶ丘中学校です。わずか1年ではありましたが、まぎれもなく学園の歴史的一幕です。

その後、人口の増加と高校進学率の急増期がやってきて、高校は公立も私立も盛況が続きました。わが校でも1990年(平成2年)には中高併せて生徒数2,053名の最多を記録しました。しかしその反動もあって、直後から新入学生が激減を続け、激しい学校間の競争でも敗色が濃くなっていきました。

2009年(平成21年)、既に理事長であった私は、中高を根本的に立て直すために、思い切った改革を図りました。男女共学校、目白研心中学校・高等学校への転換です。一からの出直しを誓い、創立者の初志を思い起こして新しい時代の人づくりに邁進する、いわば目白のルネッサンスです。その覚悟を明確にするために、校名に歴史的な「研

心」を入れました。実践的な国際交流、新しい英語教育、そして異文化理解などの、時代の要請に応える学校としての再出発です。

私は、今はもう学園経営から離れてしまった身ですが、学園の船出となった研心学園の系譜をひく目白研心中学校・高等学校の、限りない発展を心から祈っております。

ところで、多くの方はご存じないかもしれませんが、実は佐藤重遠先生がつくったもう一つの学校が、かつて存在していました。先生の郷里、宮崎県延岡市に1940年(昭和15年)に開かれた延岡実践女学校です。ただ、不幸にして戦災で焼失し、短い歴史を閉じました。同窓会は、歴代の会長や役員さんのご理解のもと、これを目白学園の姉妹校として位置づけ、その卒業生を会員として扱ってくれています。ありがたいことです。

こうして、卒業生の皆さんは、男子校から女子校、そして共学校へと変身を続けた、珍しい歴史を持つ学校で学んだわけです。90歳から110歳代の先輩には男性だけが、一番若い18歳の卒業生には男性も女性も、その中間には女性だけが。同窓会は、複雑な道を歩んできた学園の、卒業生という多様な会員を擁している訳です。

「主師親」の移り変わり

皆さんは、学園の建学の精神「主師親」を覚えておられることと思います。在学中に先生方から幾度となくその教えを聞き、教室の正面に掲出されていた三文字の額を毎日見ながら、学校生活を送ってきたはずです。

建学の精神とは、文字通り、創立者が学校を創建するときの情熱や教育方針を端的に宣言する言葉です。私立学校にとっては、国家にとっての憲法のように、学校のあらゆる決め事や教育の上位に置かれた大切な思想です。個々の私立学校の最も明確な特徴です。

我が目白学園の「主師親」は、佐藤重遠先生が深く帰依していた日蓮上人の著書、『開目抄』から引用したものです。ただし、先生は自己の信仰を学園教育に持ち込むことは一切なく、「主師親」に宗教的な意味は持たせておりません。人が生き

る上で守り続けるべき教えとして、また、学園がその教育の中で骨格とすべき教えとして、提示したのでした。

佐藤先生は、1939年(昭和14年)発行の『目白学友会会報』では、生徒が敬うべき対象として、「主」は国家、「師」は学園、「親」は家庭として説明しています。世の中の価値観が大転換した戦後では、1959年(昭和34年)の『目白学園新聞』に、社会や国家へ奉仕する忠の精神、指導者に随順する梯の精神、そして父母に報いる孝の精神であるとし、要約して「奉仕、尊敬、感謝」を趣旨として説明しています。

年配の卒業生の皆さんは、主師親が「主に対して随順、師に対して敬愛、親に対して孝行」の三徳を意味し、これらを実践するよう諭されたことを思い出すのではないのでしょうか。あわせて、ここでいう主とは長上、民族、社会、国家を指し、師とは教師のみならず学識経験者や真理を説く書物をも指す、と教えられた筈です。

その後、我が国では民主主義や人間平等思想がいつそう進展したのですが、これに伴い、建学の精神を改めて現代的視野の中で解釈し、表現しようという機運が学園内で高まってきました。例えば、「随順」という語は「逆らわずに付き従う」イメージが強く、このままでよいのか、という疑問です。また、各学校間の考え方の調整が必要ともされました。

こうした課題に応えるために、学園は1977年(昭和52年)、学園内各学校の代表者による「建学精神研究会」を組織して、「建学の精神の現代的解釈とその運用の方策」について議論することになりました。

私も、常務理事として議論に加わり、会の運営に当たりました。研究会は、古今の文献に当たり、学園内のさまざまな印刷物を読み解き、盛んに議論を重ねて、翌年の3月に成果報告書を提出しました。併せて各校の教訓を提言しました。

これを基にして、学園理事会は以下のように建学の精神の表現を定めました。

1. 国家社会への献身的態度
2. 真理探究の熱意

3. 人間尊重の精神

また、各校の教訓については、短期大学は上と同じ語句を使い、中学・高等学校は「誠実、敬愛、感謝」と定め、幼稚園は「きまりをまもるこども」等の5項目としました。

このようにして、「主師親」もまた、激動の歴史の中で微妙に変化してきました。今も教室に掲出されている文字は、1932年(昭和7年)に学園顧問の床次竹二郎先生に揮毫して頂いたものの写しですが、この額も、「主師親」を説明する意味合いの微妙な変化を、じっと見守ってきたと言えます。

学園の栄華

目白学園は本年、研心学園として発足して以来100周年に達しました。後半の半世紀ちかくを共に歩んできた私にとって、学園が拡充していった日々は、懐かしく充実した思い出となりました。中学校、高等学校以外の主な経緯について、ご報告したいと思います。

創立者佐藤重遠先生は、やがて大学をも含めた一大学園としたいという当初の夢を、最晩年に短期大学の設立をもって実現しました。1984年(昭和59年)に5人目の理事長となった私は、さらに4年制大学を設立して学園を大きくするのが創立者の志を引き継ぐ者の使命である、という思いを強く持っておりました。ただ、折からの国の大学新增設抑制政策の下では、その実現は多難であり、ようやく埼玉県岩槻市(現、さいたま市岩槻区)に開学できたのは、1994年(平成6年)でした。

小さな1学部2学科でスタートした目白大学は、今度は6年後の国の政策転換という追い風に恵まれ、新宿と岩槻の両キャンパスと、新たに開発した国立埼玉病院キャンパスとで、毎年のように学部や学科の増設、改組転換を続けました。また、大学院を新設して博士課程までの拡充を実現することができました。

結局、理事長を退いた2011年(平成23年)までに、7学部19学科、大学院の7研究科11修士課程、2博士課程の認可を受けることができました。学生数は、6,350人超となり、全国の私立

大学でも“中の大”規模校に成長しました。他にも、社会貢献として、心理カウンセリングセンター、耳鼻咽喉科クリニックなど、6つの大学付属施設を開設し、地域住民や提携自治体等のお役に立てるようになりました。

一方で、短期大学は全国的にみて、かつて女子の進学的主流であった頃の栄光の時代を通り過ぎ、急速にしぼんでいくという苦しい状況になってしまいました。本学園でも、人気が高かった学科が不況に陥るなど、厳しい現実と直面し、何回かの改組を経て、今日の小さな短期大学に至っております。

それにしても、敷地面積、校舎面積、財政規模と、いずれも3倍を超す急拡大を、学園は実現しました。卒業生の皆さんには、母校の発展を誇りに思ってくださいと思います。私としては、学園100年の歴史の中で、創立者をはじめ、歴代の経営者や教職員が苦勞の末に積み上げてきた礎の上に乗れ、最も栄華を極める時期に学園経営を担当できた私は、なんと幸せな理事長であったかと、感慨深いものがあります。

反面、時代の変化に対応し、学園の発展を期すという大義はあったものの、創立者がつくった高校商業科と幼稚園、短大の初期の学科を廃止せざるを得なかった時は、断腸の思いでした。今もなお、卒業生に対して申し訳ない思いが、心の重い石として私の中に残っております。

ただ、在任中は小さな苦勞はあったものの、私の最後の10年余りは、心置きなく学園外の仕事にも力を注ぐことができました。日本私立短期大学協会会長や、幼稚園から大学までの私立学校を網羅した全私学連合の委員、私学教職員の研修と福利厚生とを支える諸団体の役員、そして国の中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会、学校法人運営調査委員会などで存分に働くことができました。私が充実した社会人人生を送れたのは、目白学園のお陰であり、深く感謝するところです。

同窓会の明日へ

私が目白学園に着任した当時、同窓会の会長は、土屋トシ子さんという心優しい女子商業学校の卒

業生でした。男子校出身の最後の会長となった亀山豊房さんからバトンタッチして10年も経っているのに、毎年恒例の役員懇親会などでは、亀山さんはじめ男子校の役員にたいそう気を使っている姿が、印象的でした。それこそ、目上を敬う建学の精神を体現しているような方でした。

もっとも、学園の基本規則である「学校法人目白学園寄付行為」に定める学園評議員の卒業生枠は5名ですが、土屋さんと短大校友会会長以外の3人はまだ男子校出身者が占めていた時代です。土屋会長のご苦勞はよく分かりました。一方の男性役員の方も、女性会長が気兼ねなく会務に励めるように、何かと配慮していたのも印象的でした。亀山さんも斎藤信孝さんも片山賢治郎さんもそして土屋さんも、皆さん鬼籍に入られましたが、これら先輩のお力によって、同窓会は母校の変身を受け入れながら円滑に営まれてきた、と私は思っております。

土屋会長の跡を継いだ鹿内廣子さんは、初めての目白学園高校の卒業生会長であり、以後、田中金子さん、現在の稲葉典恵さんと続いています。どなたも長年に亘って大変献身的に同窓会の運営に励み、卒業生の心の故郷ともいえる学園と共に歩んでくださっています。学園は素晴らしい同窓会に恵まれている、と感謝しているところであります。

特に現会長の稲葉さんは、めまぐるしく変転する世情にきちんと対応し、改革すべきことは断固改革しながら、時代がどう変わろうとも卒業生に寄り添っていける同窓会でありたい、と願って会務に精励なさっているそうです。私は、そんな稲葉会長はじめ役員の方々を心から信頼し、ご活躍を期待しております。

会員の皆さん、同窓会は役員の方々の奉仕活動によって運営されています。役員が公私生活の幾分かを犠牲にしつつ尽力することで、持続されています。皆さんがこのことを理解し、同窓会の明日に向けて役員と心をついにし、同窓会を盛り上げていくよう、陰ながら祈っております。

私の回顧録のような拙文を結ぶに当たり、重ねて同窓会に敬意を表し、その益々のご発展を祈念申し上げます。

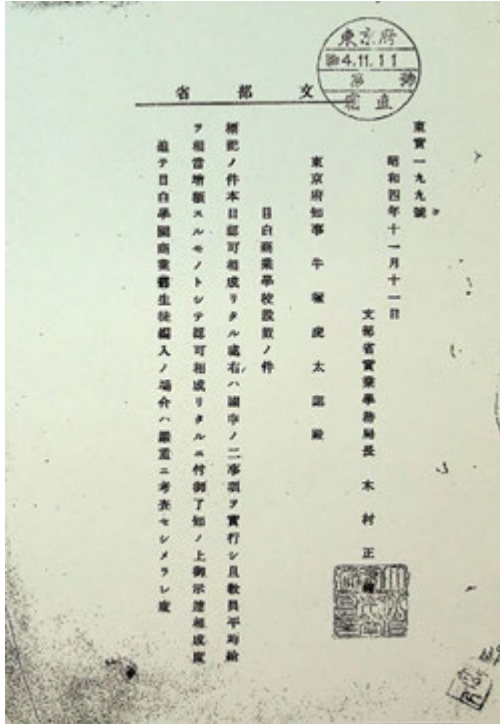
目白学園の歴史

大正 12 年 (1923)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤重遠・フユ夫妻により、東京都新宿区に「研心学園」を創設 ・理事長に佐藤重遠就任
昭和 5 年 (1930)	<ul style="list-style-type: none"> ・「財団法人目白学園」設立 ・「目白商業学校」(男子)を新設 ・佐藤重遠が理事長に就任
昭和 6 年 (1931)	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌制定 <p>[創立者佐藤重遠先生が東京帝国大学時代の学友、小林俊三氏(後の最高裁判所判事)に作詞を委嘱。現在も学園全体で歌い継がれている。]</p>
昭和 9 年 (1934)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤フユ、第二代理事長に就任
昭和 15 年 (1940)	<ul style="list-style-type: none"> ・創設者の故郷宮崎県延岡市に「延岡実践女学校」佐藤重遠理事長、佐藤フユ校長により開校(目白学園ではないが、目白研心中学校・高等学校同窓会の姉妹校である)
昭和 19 年 (1944)	<ul style="list-style-type: none"> ・「目白女子商業学校」を新設(以来平成 21 年まで女子校に)
昭和 22 年 (1947)	<ul style="list-style-type: none"> ・目白学園中学校の前身「桐ヶ丘中学校」開設(戦後の混乱期での開設であり翌年目白の学校名に変更、短期間ではあったが目白研心中学校・高等学校同窓会では姉妹校にしている)
昭和 23 年 (1948)	<ul style="list-style-type: none"> ・目白女子商業学校を「目白学園高等学校」と「目白学園中学校」に改組し女子校に延岡女子商業学校閉校(昭和 19 年延岡実践女学校から改称)
昭和 26 年 (1952)	<ul style="list-style-type: none"> ・財団法人目白学園を「学校法人目白学園」に組織変更
昭和 31 年 (1956)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤重遠、第三代理事長に就任
昭和 33 年 (1958)	<ul style="list-style-type: none"> ・円形校舎竣工
昭和 35 年 (1960)	<ul style="list-style-type: none"> ・「目白学園幼稚園」を新設
昭和 38 年 (1963)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都新宿区に「目白学園女子短期大学」を新設し英語英文科を設置
昭和 39 年 (1964)	<ul style="list-style-type: none"> ・床次徳二、第四代理事長に就任 ・短期大学に国語国文科生活化学科を増設 ・創立 40 周年記念式典を挙行
昭和 42 年 (1967)	<ul style="list-style-type: none"> ・女子教育研究所を設置
昭和 48 年 (1973)	<ul style="list-style-type: none"> ・創立 50 周年記念式典を挙行
昭和 55 年 (1980)	<ul style="list-style-type: none"> ・田邊教行、第五代理事長に就任
昭和 58 年 (1983)	<ul style="list-style-type: none"> ・創立 60 周年式典を挙行 ・佐藤重遠記念館竣工
昭和 59 年 (1984)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤弘毅、第六代理事長に就任
平成 5 年 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> ・目白学園高等学校商業科を廃止、普通科に国際コースを設置
平成 6 年 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県岩槻市(現埼玉県さいたま市岩槻区)に目白大学を新設し人文学部を設置
平成 7 年 (1995)	<ul style="list-style-type: none"> ・目白学園中学校に英語特設学級を設置(通称 ACE)
平成 10 年 (1996)	<ul style="list-style-type: none"> ・目白学園高等学校普通科に英語コースを設置
平成 11 年 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> ・「目白大学大学院」を新設 ・円形校舎解体
平成 12 年 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> ・目白学園幼稚園を廃止 ・目白大学人間社会学部を増設 ・心理カウンセリングセンターを設置 ・目白学園女子短期大学を「目白大学短期大学部」に名称変更して英語英文科及び国語国文科を言語表現学科に改組 ・目白大学エクステンションセンターを設置 ・平成 14 年(2002) 目白学園高等学校が文部科学省よりスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(英語が使える人材を育成するための研究校)に指定される。

平成 12 年 (2000)	・目白大学に経営学部を増設 ・「目白大学経営研究所」を設置
平成 15 年 (2003)	・目白大学短期大学部に子ども学科を増設
平成 17 年 (2005)	・目白大学に外国語学部と保健医療学部を増設
平成 18 年 (2006)	・目白大学に看護学部を増設 ・目白学園女子教育研究所を「目白大学教育研究所」に改組
平成 19 年 (2007)	・目白大学人間社会学部を改組再編、人間学部及び社会学部を設置 ・目白大学短期大学部生活科学科製菓コースを改組拡充し、製菓学科を設置
平成 20 年 (2008)	・目白大学クリニック〈耳鼻咽喉・リハビリテーション科〉を設置
平成 21 年 (2009)	・埼玉県和光市に「国立埼玉病院キャンパス」を開設 ・目白学園中学校・高等学校を「目白研心中学校・高等学校」に名称変更、男女共学に
平成 22 年 (2010)	・目白大学短期大学部にビジネス社会学科を増設
平成 23 年 (2011)	・「目白大学メディカルスタッフ研修センター」を設置 ・逸見博昌、第七代理事長に就任
平成 25 年 (2013)	・目白大学クリニックを「目白大学耳科学研究所クリニック」に名称変更
平成 26 年 (2014)	・目白研心中学校にスーパー・イングリッシュ・コースを設置
平成 27 年 (2015)	・尾崎春樹、第八代理事長に就任 ・目白研心高等学校にスーパー・イングリッシュ・コースを設置 ・「目白大学地域連携研究推進センター」を設置
平成 30 年 (2018)	・目白大学にメディア学部を創設 ・岩槻キャンパスを「さいたま岩槻キャンパス」に名称変更
平成 31 年 (2016)	・目白大学短期大学部に歯科衛生学科を設置
令和 2 年 (2020)	・目白大学に心理学部を増設 ・百年館竣工
令和 5 年 (2023)	・目白学園創立 100 周年

中学校・高等学校歴代校長

研心学園	今泉 定介	大正 12 年 (1923 年)	目白学園中学校・ 高等学校	佐藤 重遠	昭和 33 年 (1958 年)
	佐藤 重遠	大正 13 年 (1924 年)		木村 達明	昭和 39 年 (1964 年)
	三谷 六郎	昭和 4 年 (1929 年)		黒田 源六	昭和 49 年 (1974 年)
目白商業学校	三谷 六郎	昭和 5 年 (1930 年)	目白研心中学校・ 高等学校	松尾 中	昭和 51 年 (1976 年)
	清水 久彦	昭和 5 年 (1930 年)		上草 颯	昭和 57 年 (1982 年)
	三宅 禄郎	昭和 9 年 (1934 年)		高野 貞	平成 2 年 (1990 年)
	山永 登	昭和 15 年 (1940 年)		松原 保久	平成 5 年 (1992 年)
	妻木 正次	昭和 16 年 (1941 年)		松村 登喜男	平成 7 年 (1995 年)
	中村 正文	昭和 18 年 (1943 年)		香川 雅則	平成 10 年 (1998 年)
	川口 米治	昭和 19 年 (1944 年)		松本 逸也	平成 15 年 (2003 年)
	橋口 長一	昭和 20 年 (1945 年)		野中 英雄	平成 18 年 (2006 年)
目白女子商業学校	佐藤 フユ	昭和 19 年 (1944 年)	野中 英雄	平成 21 年 (2009 年)	
桐ヶ丘中学校	佐藤 フユ	昭和 22 年 (1947 年)	松下 秀房	平成 24 年 (2012 年)	
目白学園中学校・ 高等学校	佐藤 フユ	昭和 23 年 (1948 年)	吉田 直子	令和 5 年 (2023 年)	
	今泉 忠義	昭和 24 年 (1949 年)			
	御巫 清勇	昭和 25 年 (1950 年)			
	佐藤 フユ	昭和 31 年 (1956 年)			



昭和 4 年 目白商業学校認可



昭和 6 年 開校当時の目白商業学校の正門
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和 10 年代の学校周辺
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和 15 年 延岡実践女学校
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和 15 年 佐藤重遠邸を改築した延岡実践の校舎
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和 20 年 目白商業の学生 (正門前)
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和 24 年 目白女子商業学校卒業記念写真
(モノクロ写真をカラー化しています)



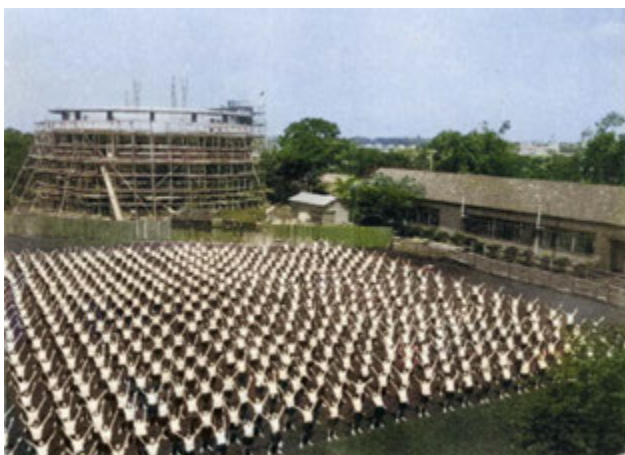
昭和32年 航空写真
(モノクロ写真をカラー化しています)



在りし日の佐藤重遠先生とフユ先生
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和30年代半ば頃植物園と円形校舎



昭和32年 建築中の円形校舎の前で
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和30年代の中井駅通学風景
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和38年当時 制服 まだ白いブレザーはありません
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和40年 高校修学旅行
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和43年 生徒募集要項パンフレット



昭和40年 高1理科巡検
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和42年 当時としては珍しいテレビ撮影設備



昭和40年 入学式



昭和44年 航空写真



昭和45年 合唱コンクール
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和50年代 1号館、本館、円形校舎



昭和50年代 学園にあった竪穴式住居跡
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和59年 三笠宮殿下ご訪問 (竪穴式住居遺跡前)



昭和56年 テーブルマナー



昭和50年頃 願書受付の長蛇の列
(モノクロ写真をカラー化しています)

現在の目白学園・目白研心



佐藤重遠記念館

(創立60周年を記念して落成しました。収容人数800名、式典や各種行事に使用されています)



現在も続いている伝統の合唱発表会



建学の精神は現在も各教室に掲げてあります。
(1932年に学園顧問の床次竹二郎先生に揮毫していただいた写し)



教室



『目白学園遺跡出土品資料室』
(佐藤重遠記念館内にあり、どなたでも見学いただけます)



全国レベルのチアリーディング部 (POLARIS)



小型プラネタリウムも備わっているサイエンスルーム (理科室)



明るい雰囲気のカフェテリア (食堂)



アリーナ (大体育館)



学習支援センター (図書室)



目白大学新宿キャンパス



目白研心中学校・高等学校校舎



目白大学新宿キャンパス



目白大学短期大学部校舎



目白大学さいたま岩槻キャンパス



目白大学耳科学研究所クリニック



目白大学国立埼玉病院キャンパス



クリニック 受付、待合室

現在の制服

セーラ服に白いブレザーがシンボルの女子生徒の制服に、2023年度から新たに紺のブレザー・スラックスが加わりました。

どちらか選択できるようになり、生徒から好評だそうです。



歴代校長挨拶

百周年を祝して

香川 雅則

百周年、おめでとうございます。
います。

私は昭和38(1963)年に商業・社会科の教員として奉職し、所謂叩上げの教員から校長になったものです。



奉職初日、昔5号館と言われた建物の入口で風に飛ばされたスノコをしゃがんで直していたら突然真っ暗になりました。何かと思ったらある生徒が頭上を跨いで行ったのです。それがこの学校の最初の強烈な印象です。当時の生徒は第二次世界大戦後まもなく生まれた子供たちで、クラスには多様な生徒が集まっていた。商業科の担当となったのですが、なかなか手のかかる思い出深い生徒たちでした。

そこでこの生徒たちに何とか自信を付けさせたいと簿記会計を担当した私は全員に「卒業までに3級取得」を義務付けました。上位の生徒は簡単に1級取得しましたが、当時は全国的に3級取得者が4割程度の時代で全員合格を果たせた事は最高の喜びでした。この達成は偏に同級生の献身的な支えとチームワークのお蔭と信じております。そして、やっと3級を取得出来た生徒が後に税理士試験合格と聞きました。人の能力は目先の頭が良いとか理解が早いとかとは異なる凄い能力が備わっているのだということを私自身が身に染みて学びました。目標を持って真摯に学ぶ力、そこに人の素晴らしさがあることを皆さんが子育ての中で学んで頂ければ幸いです。人生は一生通しての自分探し。夢を描き続けましょう。82歳の爺より

創立100周年によせて

松本 逸也

同窓会の皆様、母校の創立100周年、まことに
おめでとうございます。

私が、前身の目白学園女子中学校・高等学校の校長をさせていただいたのは2003年4月から2006年3月までの3年間でした。目白学園女子短期大学(当時)の教員から突如、校長という、私にとってはまさに青天の霹靂でした。それまで31年間、新聞記者を勤め、短大教員へ転身し、教員としてはまだよちよち歩きで船出をしたばかりでした。

その校長を離れて早いもので17年になります。その後、目白大学の教員を経て2017年3月に定年になりました。今、思うと当初は素人校長が故に戸惑うこともありましたが、生徒たちからは楽しい、良い思い出をたくさん頂きました。

その中でも鮮明な記憶があります。校長になって初めての運動会。当日、配られた運動会の葉をみて腰が抜けるほど驚いたことがありました。表紙に見た顔の二人の似顔絵が大きく掲載されていました。私と同時に着任した羽田絃一副校長の顔です。特徴をしっかりと捉えた二つの顔が重なるように画面いっぱいに広がっていました。誰が描いたのか分かりませんが凄い才能だと驚きました。そのイラストから、生徒の生き生きした感性と私たちを受け入れてくれている優しさに感動したのです。

「これは私の宝物」と長らく我が家の書棚にしまい込んでいました。この挨拶文を書くにあたって探したのですが見当たらないのです。どこかにあるはずなのに……。喜寿を機にそろそろ終



活しろというお告げなのかも知れないと思いはじめています。

100周年と一口に言いますが、この100年の我が国の歴史を考えると大変、重みのあるものです。戦争、復興、バブル、そして低迷する日本経済、さらには少子化と様々な問題山積の時代に入りました。だからこそ、将来を担う若者の能力をフルに生かせる、教育の重要性こそが叫ばれています。

多くの人材を世に送り出してきた、目白研心中学校・高等学校のこれからの100年に大いに期待しています。同窓生の皆さんも健康に留意され、ますますご健勝でご活躍くださることを祈念しています。

創立100周年の発展を祝して

野中 英雄

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと拝察申し上げます。目白学園創立100周年誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。



令和5年、新型コロナウイルス感染症による様々な生活の制限も徐々に解除され、以前の生活に戻りつつあるこの頃、目白研心中学校・高等学校、また同窓生の皆様も、心新たに新年度をお迎えることでしょう。

目白学園は、大正12年(1923年)創立者佐藤重遠先生により研心学園として創立されたのを始まりとし、大正、昭和、平成そして令和と永き歴史を経て、この令和5年創立100周年を迎えました。

この歴史は、創立者をはじめ教職員、生徒、保護者の皆様、同窓生の皆様、そして様々な面で、学園を支えてくださった関係者の皆様によるも

のであり、本当に素晴らしいことだと思います。

私立学校に対する社会の要求は常に高く、いかに時代を見据えて前に進んでいくかが問われています。私が校長に就任して4年目の平成21年(2009年)目白学園中学校・高等学校は、目白研心中学校・高等学校に改称し、共学校としての新たな時代を歩むこととなりました。建学の精神である「主・師・親」をもとに、「誠実・敬愛・感謝」を校訓とし、それまでの伝統を継承しつつも新しい学校としての挑戦への始まりでした。後任の松下秀房校長により目白研心中学校・高等学校は、入学者数や進学実績等で成果をあげ、共学校として広く認知されることとなりました。そして令和5年、吉田直子新校長が就任されました。目白研心中学校・高等学校が、さらなる発展をされていくことを心より祈念しております。

私が目白学園中学校・高等学校に奉職したのは、47年前の昭和51年(1976年)の4月のことでした。当時は、勿論PC等まだなく印刷機も手動で原稿も手書きでした。現在の教育機器の発達を目の当たりにすると隔世の感を禁じ得ません。そして、数学の授業、講習。桐陽祭、運動会、合唱発表会、林間学校、修学旅行、語学研修などの学校行事。数々の思い出が生徒の皆さんとその光景とともに今でも鮮明に残っております。また、保護者の皆様や同窓会の皆様にもご協力いただき一緒に活動させていただいたことも良い思い出となっております。在職中お世話になりました皆様に心より御礼申し上げます。

目白研心中学校・高等学校がこれからも一層挑戦する姿勢を持ち続け、新たな歴史を創造し、益々力強く発展継続していくことを心から願っております。

同窓会会報を毎回楽しみに読ませていただいております。同窓生の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

100周年に寄せて

松下 秀房

目白学園の創立100周年を心からお祝い申し上げます。このような大きな節目のお祝いに参加できますことを光栄に存じます。私は2012年4月に中高の校長として奉職し、11年間勤め2023年3月に退職致しました。



目白学園が創立され歩みを始めた黎明期は、明治初年から築いてきた近代教育制度が拡充して、国民教育として確立するための議論が活発化した「大正デモクラシー」と称される時期でした。明治時代の高等教育機関で養成された世代の人々が次第に社会の中核を担うようになり、そのお一人でもあった佐藤重遠先生は、弱冠35歳の若さで時代の動きに呼応するかのようになり、時代を超えて普遍的な価値と言える「主・師・親」という理念を建学の精神として、中高の前身である研心学園を創立されました。創立時から時代や社会情勢の変化とともに歩み、幾多の危機に瀕したこともありましたが、そのたびに学園関係者・卒業生・保護者・生徒が力を合わせ時代に適応して危機を乗り越えて、研心学園を端緒に目白商業学校、目白女子商業学校、桐ヶ丘中学校、目白学園中学校・高等学校、目白研心中学校・高等学校と変遷して今日に至っています。

さて、日本の学校教育は明治以来今日に至るまで、いわば三度の大きな変革を経てきています。

第一の変革は、明治期の学制に始まる西欧の近代合理主義の受容を目標とした改革です。第二の変革は、戦後のアメリカ民主主義の理念を目標とする改革です。確かにこの二つの変革によって、日本は産業・経済の驚異的な発展と中等・高等教育の普及・拡充の面で著しい成果をあげました。しかし、その反面見失ってきたものも多岐にわたる多面体でしばしば指摘されるようになりました。第三の変革は、二十一世紀に入り政治・経済・科学技術の面でICT化とグローバル化が進んでその大きな波が教育界にも押し寄せ、地球規模で活躍できる独自性や創造性豊かな人材の育成を目標とする改革が余儀なくされています。本校もこうした時代の流れを取り入れ、2009年に大きな学校改革が始まり、二十一世紀の国際社会で活躍できる人材を育成することをミッションにして、新校舎を建設、校名を「目白研心中学校・高等学校」に改称し男女共学に移行しました。学校改革のスタートから4年目になる2012年より、「進学校として社会的評価を向上させ、生徒の安定的確保を目指す」を目標とした中期計画を策定して教育実践した結果、右肩上がりの成長が実現し今後さらなる飛躍が期待されております。

学校にはそこに集う人々のすばらしい出会いと、教職員、卒業生、生徒を結ぶ絆があります。常に脈々と新しい息吹が流れていて、凡そ3万8千名の青春の場であり続けています。これからも永遠に続く学園の時の流れの1コマ1コマを飾る未来の同窓会の皆さんに精一杯の声援を贈ります。

目白大学 同窓会会長挨拶

大学同窓会

目白学園創立 100 周年に寄せて

この度は、目白学園創立 100 周年、おめでとうございます。

目白学園の歴史を築いてこられた諸先輩方に敬意を表し、お祝い申し上げます。

私たち、目白大学同窓会についてご紹介させていただきます。目白大学は 1994 年（平成 6 年）に人文学部 2 学科で岩槻キャンパスに設立されました。私は目白大学の一期生で 3 代目、5 代目の目白大学同窓会会長を務めさせていただいています。現在、会員数は 2 万人の規模になり日本のみならず海外にも同窓生がいます。また、目



目白大学同窓会
会長 渡辺 尚吾

白学園中学校・高等学校出身の同窓生も開学当初から入学されています。目白学園中学校・高等学校出身の学生は、チアリーディング部出身の学生も多く、彼女たちを中心に開学当初から目白学園の歴史であるチアリーディング部が創部され、目白大学チアリーディング部の歴史を築いてくれました。

開学当初は、岩槻キャンパスのみでしたが、2000 年（平成 12 年）に人間社会学部が設置され、新宿キャンパスが開設され、目白学園開学の地に目白大学が開学し、現在では新宿キャンパスには、5,600 名の学生が学生生活を過ごしています。

目白学園を築いてこられた皆さんの歴史があるからこそ、目白大学ができ、歴史ある学園として誇れるものがあると考えています。これからも目白学園がこの先の創立 200 年を目指して目白大学同窓会も皆さんと同じ気持ちで益々、発展することを願っています。

短期大学部校友会

目白学園創立 100 周年を祝して

目白学園（中学校・高等学校）創立 100 周年をお迎えになり、誠におめでとうございます。100 年という歴史に思いを馳せ、心よりお祝い申し上げます。旧職員の一人としても、歴史の一助を担い、見守ってこられた幸せを感謝いたしております。

今年は短期大学部も開学 60 周年と記念すべき節目の年となり、共にお祝いできますことは光栄で、大きな喜びでございます。

大正 12 年創設の研心学園をその祖として歴史を積み重ね、総合学園へと発展の一途をたどり今



目白大学短期大学部校友会
会長 矢口 雅子

日を迎えられましたことは、建学の精神を礎として、創立者の志を引き継いだ学園関係者・教職員の皆様の並々ならぬご尽力の賜物と心から敬意を表します。また、歴代の同窓会の会長・役員、現在の稲葉会長、役員の方たちのご努力の上に、情熱や順応性、果敢な行動力のある多くの力を秘めている同窓生が、脈々と築いてこられた何物にも代えがたい宝物だとも思います。

校友会員には、数多くの同窓会員（高等学校卒業生）もおられます。

同じ学園で学んだという絆のもと、同窓会と校友会が共に手を取り合い、社会貢献できる意義深い会として、育み大きく輪を広げていきましょう。

「母校よ、永遠であれ」卒業生の一番の願いです。

目白研心中学校・高等学校と同窓会が更なる発展へと歩まれますよう、そして同窓会会員各位がそれぞれのお立場でご活躍され、お健やかに過ごしてくださいよう祈念いたしております。

同窓会の歩み

昭和32年9月、第1回創立総会が開催され、目白学園同窓会が発足しました。(昭和34年4月に発行された同窓会名簿前書き「同窓会の皆様へ」による)

当時の会則には、次のように記されています。

一 通常会員

イ 母校卒業生

ロ 母校に在籍したるものにして常任理事会の承認したもの

一 特別会員

母校の教職員及び在職した教職員

この会則の母校とは、「目白商業学校」「目白女子商業学校」「桐ヶ丘中学校」「目白学園高等学校」、さらに姉妹校である「延岡実践女学校」も含まれたものでした。同窓会の発足時にはすでに目白学園は女子校の時代で、「目白商業学校(男子校)」「目白女子商業学校」「桐ヶ丘中学校」「延岡実践女学校」の4校はありませんでした。

発足当時、同窓会員の中心的な役割を担っていたのは、目白商業学校の男性会員でした。男子校から女子校に転換したことから、母校への喪失感が強くあったようです。しかし、開校期間が短かった桐ヶ丘中学校や、宮崎県延岡の地で学んだ延岡実践女学校の卒業生に対しても思いを馳せ、同窓生として連帯感を持っていたことを感慨深く思います。その連帯感は、今もなお目白の同窓生に受け継がれております。

特筆すべきことでは、目白商業高等学校男性卒業生独自の活動として、昭和45年より「目白学園同窓生の消息」というB5判の独自の消息誌を作っていました。これは、目白商業高等学校の同窓生からの近況や消息が判明した方の人数などが事細かく書かれております。

編集責任者も、中島善三さん(昭和17年卒業)

山口弥さん(昭和17年卒業)古川竜雄さん(昭和20年卒業)と、3代に渡り、平成25年までの

間、目白商業の同窓会としての独自の歴史を作られました。

同窓会長は、第2代まで男性会員が務めました。女性会員が増加した昭和41年度からは、女性会員がその任に当たり、現在まで続いております。現在会長は第7代となります。平成21年に目白研心中学校・高等学校と名称を変更し、男女共学になりました。将来は再び、男性会長が誕生することを願っております。

初代会長 阿久津義廣 (昭和32年～39年)

第2代会長 亀山豊房 (昭和39年～41年)

第3代会長 土屋トシ子 (昭和41年～52年)

第4代会長 鹿内廣子 (昭和52年～57年)

第5代会長 土屋トシ子 (昭和57年～平成6年)

第6代会長 田中金子 (平成6年～令和元年)

第7代会長 稲葉典恵 (令和元年～)

同窓会の活動会員名簿の作成は、当初は手書きのガリ版で苦心して作られていたようです。会報が創刊されたのは、昭和38年でした。用紙はわら半紙、B5判の活版印刷の会報でした。創立者佐藤重遠先生の「同窓会報の発行を祝して」という、今では大変貴重な挨拶文が掲載されています。

また、当時の会報を読み返してみますと、「会員の近況報告ならびに苦情」という今では発想しがたいコーナーがありました。さらには、会報を発行するのに会費が少なく、「会報の存続なるか?」という見出しとともに、当時23歳の会計補佐の方が、「諸物価の高騰により会報発行が不可能になっていくので、何か良いお知恵はございませんか」と会報で嘆願されたことも注目されます。当時は本当に大変な時代でした。その後生徒数も増え、同窓会総会の度に会報を発行することができるようになりました。

しかし、平成になると生徒数が激減し、財政難になり、会報発行を3、4年に一度に変えたこともありました。総会も学校で開催するようになりました。それでも、総会と懇親会は毎年続けてお

りました。桐陽祭には長年バザー、かき氷やわたあめなどの販売で参加を続けておりました。

令和に入り、新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の危機に直面し、以前のように総会や懇親会が開催できなくなりました。また、桐陽祭にも参加できなくなりました。他にも、個人情報保護法により、会則に特別会員として会員となっていた教職員の情報を同窓会が得ることが難しくなり、会員の括りから教職員を外し、卒業生のみとした会則に改定しました。

様々な困難の中での令和のスタートではありましたが、総会を紙上総会に変更し、可能な限り会報を毎年発行しようと努力しております。同窓会

では、学園の周年記念事業への協賛や寄付金の贈呈を行ってきました。最近では、令和2年7月に新型コロナ支援金を目白大学、目白短期大学部校友会と共に、学園に贈呈させていただきました。100周年記念も、同窓会として寄付金贈呈を考えております。また、ホームページも令和元年より開設いたしました。同窓会のお知らせや住所変更、校歌等、さらには令和2年度よりホームページ内でも会報がご覧いただけるようになりました。

学園創立100周年という大きな節目を迎えた今、目白研心中学校・高等学校のさらなる発展と、同窓会がこれからも会員の皆様と母校を繋ぐ架け橋となることを、心より願っております。



目白商業作成の消息便り



創刊号 (昭和 38 年)



創刊号に掲載された創作者挨拶文



過去の会報



昭和 59 年 総会でマイクを握る鹿内会長



昭和 63 年 総会で挨拶する土屋会長



平成 14 年 6 月 2 日 目白学園同窓会・総会 研心館にて



平成 15 年 桐陽祭にバザーで参加



平成 17 年 目白商業の皆様 (総会にて)



平成 17 年 にぎわうバザー



平成 24 年 総会にて、乾杯する共学後の同窓生



平成 29 年 総会で挨拶する田中会長



令和 1 年 総会で挨拶する尾崎理事長



令和 1 年 総会で挨拶する稲葉会長



自由研心中学校・高等学校同窓会

同窓会 現在の役員



令和 2 年 学園に新型コロナ支援金を贈呈

歴代同窓会長挨拶

時が経っても青春時代

同窓会第4代会長 鹿内 廣子

一言で100年と申しますが、戦前、戦中、戦後と学校の歴史が続いたことは素晴らしい、そこには大変なご苦労もあったかと思えます。



私は昭和29年の卒業生であり、私たちが入学した時代はどこの学校も木造建築でした。石炭ストーブの煙突が各教室から出ていて、級友とストーブの上にお弁当を並べ、お昼近くになると美味しそうな湯気がお教室中に行き渡り、4時間目の終わりの鐘がとても待ち遠しく感じられたものでした。中井駅から母校までの川沿いは、喧嘩したお友達と仲直りをした道でもありました。五の坂や六の坂にしても遅刻しそうな時、どの坂が近道かと宿題よりも悩み研究したものでした。(当時は遅刻をすると校門で身分証明書を取り上げられて、下校時に職員室に取りに行かなくてはならなかったのです)そのような様子が懐かしく思い出されます。

卒業後は同窓会会長を務めさせていただきましたが、学園祭や運動会など、学園の行事に参加できた体験は今では貴重な思い出として残っております。そして同窓会の仕事で校門をくぐるといつでも学生時代の自分に帰り、嬉しくなったものです。

今は学園も立派になり、素晴らしい校舎が建設されて、私たちが勉強していた校舎はどの辺りだったのかしらと全く想像ができません。

今年は米寿になります、どんなに時が経っても高校時代を思い出しますと、一瞬で青春時代に戻ってしまいます。なんて幸せなことでしょうと思っております。

同窓生の皆様、「お互いに年を取ったかしら...」なんてとんでもない！いつまでも若々しい気持ちを持ちながら、ずっと続く同窓会でありますように願っております。

学園の益々の発展をお祈り申し上げます。

創立100周年おめでとうございます。

素晴らしい目白学園時代

同窓会第6代会長 田中 金子

目白学園創立100周年大変おめでとうございます。

私は昭和35年に目白学園高等学校普通科を卒業いたしました。



平成6年より同窓会の会長として令和元年まで務めさせていただきました。

目白学園創立100周年を迎え、感慨深く色々な思い出がよみがえって参ります。

私が通学していた頃は木造校舎がほとんどで、高校3年の一年間は円形校舎で学びました。生徒数も多く、私たちの学年は650名ほどいたと思います。クラスも10組あり普通科が6組、商業科が4組でした。教室も65名入りますのでとても大きく感じました。運動場も広く、正門を入るとすぐに受付の棟があり、正面は第一体育館でした。右側には大きな木造校舎が木々の緑の中とても重厚感がありました。円形校舎を除いてすべて木造校舎であり学園には食堂も購買部もありました。文化祭は中学の友達や親戚の方々に来ていただきました。在学中忘れることのできない思い出は、佐藤フユ先生が北海道出張中にお亡くなりになったことです。上品でお優しい先生だったので、私たち生徒にとって深い悲しみでした。その後重遠校長先生のもと卒業いたしました。

卒業してそれぞれの道を歩みましたが、たまにお友達にお会いしますと、どんなに時が過ぎても、いつでも昔の学生時代に戻ることができ、幸せに感じます。目白学園に通学することができたことを、先生方や両親に感謝いたします、その後同窓会の会長になりましたことは、私にとって人生に色々収穫がありました。役員の方々と一緒に楽しく仕事ができたとともに思い出です、

今後も同窓会の発展を見守り続けていきたいと思っております。

同窓生の皆様もどうぞお元気で過ごしてください。

特別版

同窓生からのお便り 「時代を繋ぐ目白の絆」

目白商業戦前時代

目白商業学校時代の思い出

昭和 20 年卒業 (戦争のため 1 年繰り上げて卒業)

杉木 一夫

目白学園が創立 100 周年を迎えられることは誠に感慨深いものであります。大変おめでとうございます。

私が目白商業学校に入学したのは昭和 16 年 4 月です。



この年は 12 月 8 日に太平洋戦争が始まった年でもありました。学園の創立者である佐藤重遠先生には、確か入学式の時に遠くからお目にかかり、大変ご立派な方であったと記憶しております。住まいは幸いにも空襲を免れたので、現在の新宿区高田馬場一丁目 (当時は諏訪町) に今でも住んでおります。従って通学は西武線の高田馬場駅より二駅先の中井駅まで乗車し、そこから毎日急な坂道を登って登校していました。

学園は自然環境に恵まれていて、印象に残っているのは、1 万坪と言われた広い土地の校庭と松林です。

学校生活は戦時中とはいえ 4 年の 1 学期までは授業も普通に行われておりました。4 年生の時まで C 組でした。(戦時中英語は禁止という印象があったかもしれませんが、実際は文部省から禁止されていることはなく高等学校では英語の授業は行っていました)

思い出としては 2 年時の代数の授業で、先生が一元二次方程式を席順 (背の低い順から着席していて 50 名程いました) に指名され、順番に暗唱させられたのですが、自分より前の級友がなかな



昭和 16 年 5 月 村山貯水池 (1 年在学中)
(モノクロ写真をカラー化しています)



昭和 18 年 7 月 御殿場 (3 年在学中)
(モノクロ写真をカラー化しています)



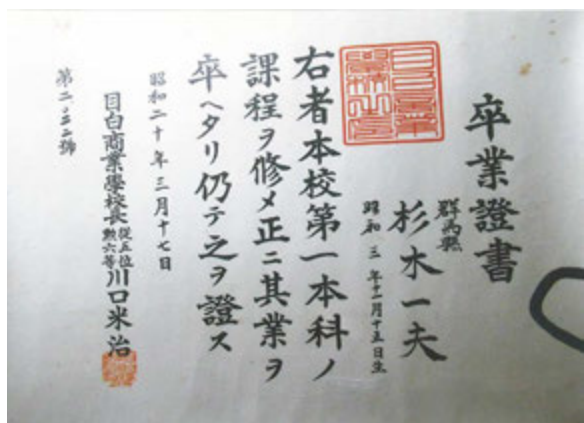
昭和 19 年 10 月頃 陸王内然機 (4 年在学中)
この時は晝夜=交代制の勤務のため同級生は半数しか写っていません (モノクロ写真をカラー化しています)



1、2 年 (1 階) 3、4 年 (2 階)



紺のベルトについていた校章付きのバックルで、
教練の時に使用したものです



群馬県となっているのは父の本籍地だからです

か答えられなくて、とうとう自分の番に来てしまいました。自分にははっきりと答えられたことでした。

なお体操の時はいつも青空の下で上半身裸でした。3年と4年の1学期には教練の締めくくりとして、富士の裾野の御殿場にて7日間泊まり込みで集団訓練をさせられたことが一番印象に残っています。

その後昭和19年の8月からは授業もなくなり、4年C組の学生は学徒勤労動員として品川区大崎にある軍需工場の陸王内燃機に勤務することになりました。ここは日本陸軍からの発注で軍用に開発されたサイドカー付きオートバイなどを作る工場、私はマイクロメーターを使用して部品の検査を担当していました。

戦争が激しくなった昭和20年3月、この場所で先生より4学年卒で卒業証書を授与されました。

その後目白の級友たちとは別々になりましたが、自分はそのまま8月15日まで大崎の軍需工場勤務して終戦を迎えました。

終戦後は早稲田大学を受験し商学部に入りました。

人生いろいろであつという間に過ぎていってしまいました。現在90歳を過ぎましたが、目白商業時代に使っていた「桐の校章が入ったベルトのバックル」や「教科書」、授業で使った「そろばん」など今も大切に保管してあります。在学中は世の中が戦争という悲惨な時代ではありましたが、私の中ではかけがえのない人生の思い出として心に深く残っています。と同時に戦争のない平和な世の中がずっと続く事を願っております。

母校が本年創立100周年を迎えることを心からお喜び申し上げますと共に、益々の発展をお祈りいたします。

目白学園昭和時代

平凡にただひたすらに

昭和49年卒業 茂木 洋子

目白学園創立100周年おめでとうございます。

今思えば目白学園時代が人生として一番楽しく充実していた時期なのかもしれません。



私は目白学園中学校から高等学校、そして短期大学と8年間、目白学園にお世話になりました。私自身は目立つタイプではないので真面目(?)な生徒として目白という温室の中で、先生や両親に見守られながら毎日幸せに過ごしてきました。

在学中の思い出として残っているのは、クラス対抗の校内合唱コンクールです。選曲からピアノ演奏、指揮者まで全てがクラス単位で行い、朝早くからの練習、お昼休みの練習、放課後の練習と、とにかく時間があれば練習に明け暮れ、優勝

に向かってクラスみんなが一つとなって頑張りました。

当時は一クラス40人程だったと記憶しております。

また高峰高原での夏の宿泊行事(当時は集団生活訓練という名前でした)は、重たいリュックを背負い、初めて買った登山靴を履き、山登りに植物の観察など、たくさんの経験をさせていただきました。正直、私にとっては自宅から離れての泊まりの生活は苦痛でしたが、初めて見上げた満天の星空や、焚き火を囲みながらのキャンプファイヤーは今でも目に焼き付いています。

現在は規則も緩和されて自由になっていると思いますが、私の在学中は規則(風紀)がとても厳しかった時代でした。

髪は肩まで伸びたら二つに結び、それ以上伸びたら三つ編み、もちろんパーマや毛染めは厳禁です。それでも年頃の私は、わからない程度に朝ホットカーラーで前髪や毛先を巻いて、朝食抜きでバタバタと登校していました。

今ではかけがえのない楽しく貴重な思い出です。

卒業後は家が自営業をしていたため、家事手伝いをしながら両親の手助けをしておりました。代々続く旧家のため、人とお付き合いやしきたり等が大変で、日々勉強でした。私が20代の時父が病気になり、30歳の時に他界しました。その後も兄が病気になったり看護の日々は続きましたが、母を支え、相談相手になり、とにかく無我夢中で日々が過ぎていきました。

しっかりしていた母も80歳を過ぎてから介護が必要になりました。母とは親子というより友達のような関係であったような感じがします。ヘルパーさんや看護師さんなど、たくさんの人に助けて頂きながら、前向きに母の介護をすることができました。その母も90歳で他界。苦労を人一倍してきた母、そしてその苦労を顔に出さずいつも太陽のような存在の母でした。ですから母が亡くなった時はすぐくショックでしたが、いつまでも泣いてはいられません。母の逞しさ、母の明るさ

に少しでも近づけるように家業を守り、私なりに頑張っ進んでいきたいと思ひます。

卒業から50年、人生70年近くになりますが、自分ではこれといって華やかな人生でもなく、ただひたすらに平凡に毎日を過ごしてきたような感じがいたします。それでも人生山あり谷ありで、とにかくここまで一生懸命でした。今でもクラスメートとは時々会い、昔話に花を咲かせています。私にとって本当に幸せな時間です。

目白学園での日々が私の人生の基礎を作り、あの時の充実した日々があるから今頑張れているのかもしれない。

最近ではコロナ感染拡大で、学校もいろいろと行事が規制されたりして生徒さんは大変ですが、人生と同じようにそれを乗り越えて、また新たな歴史を築いていければと願っております。

学園の益々のご発展をお祈り申し上げます。



目白の友人と(左から2番目が筆者)



友達のような母と

目白研心平成時代

「実り多き6年間の学生生活を振り返って」

平成23年卒業 森下 里美 (旧姓 岡田)

この度は、創立100周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

私は、平成23年に目白研心高等学校を卒業し、目白学園として入学した女子校最後の学年でした。高校二年次に男女共学の目白研心となり、卒業式では力強い後輩達に見送られたことを今でも覚えています。当時の写真を見ると、セーラ服に緊張しながら袖を通したことや放課後友人と時間を忘れて笑い合っていた日々が沢山の思い出と共に鮮明に蘇ってきます。

中学在学時、「英語の目白」という名の通り、ネイティブの先生方の授業をはじめ、カナダへのホームステイ等英語と触れ合う機会が多く、自分の英語が通じた時の喜びが強く印象に残っています。振り返ってみると、ネイティブの英語を身近に聞くことができた環境は、貴重であったと共に、海外の方とコミュニケーションをとることに対して抵抗感を感じることなく、海外への興味や語学を学ぶ楽しさを知るきっかけになったと思います。

高校進学後、私は生徒会に所属し3年次に生徒会長を務めました。運動会や桐陽祭等の学校行事では、学年の枠を超えて学校全体を取りまとめることや男女共学化という大きな変化に応じた対応に苦労しながら、日々生徒会活動に明け暮れていました。学外活動としては、災害等の募金活動をはじめ、外部ボランティア団体の加盟校への働きかけを行う等、幅広く活動してきました。学外活動へ積極的に参加することに対し、興味を追求する姿勢を先生方が常にサポートして下さいました。

高校卒業後は、社会全体の事象を的確に理解し、論理的に課題解決する力を身に着けたいという思いから、中央大学法学部へ進学しました。また、中国人の友人との出会いから第二外国語とし



シンガポールの友人とマリーナベイサンズの前で



目白の同級生と (左側：筆者)

て中国語を学び、中国大連へ短期留学やインターンシップに参加する等濃密な学生生活を送りました。大学卒業後は、経済社会の中核でもある銀行で金融業務に携わりたいという思いで都市銀行へ入行し、銀行員として社会人生活をスタートしました。結婚後は退職し、夫の転勤に伴いシンガポールでの生活を送ることとなりました。初めての長期海外生活ではありましたが、現地で友人をつくり、アルバイトに挑戦する等、刺激的な生活を送りました。

卒業後も、高校担任の恩師吉田直子先生をはじめ、当時の先生方にお会いした際は、学生時代の話に花を咲かせ、近況を話しております。卒業後も温かく見守って下さる先生方と出会えたことも私が自慢の母校と思う理由の一つです。また、青春時代を共にした友人と出会い、様々なフィールドで活躍している友人たちと今も繋がっているこ

とも私の宝物です。

今回の寄稿にあたり、目白での生活やその後を振り返ると、目白で過ごした6年間は私の人生において色々なことに挑戦する原動力となり、私の背中を押してくれていたような気がします。

最後に、このような記念すべき創立100周年という節目に、お祝いをお伝えできましたこと心より嬉しく思います。今後の目白研心中学校・高等学校の更なるご発展、また目白生のご活躍を心より願っております。

目白研心令和時代

夢にむかって

令和3年卒業 石井 大翔

皆さん初めまして。令和3年度卒業しました石井大翔(いしいたいと)です。

新型コロナウイルスの蔓延が拡大する中、縮小ではありましたが、卒業式を無事に挙行していただくことが出来ました。苦楽を共にした仲間たちと思い出を語り合ったり、今後の抱負を語り合ったりととても充実した高校生活でした。このような情勢の中で卒業式を行なっただけなことにとっても感謝しています。

目白研心高校の在学中、今でも脳裏に焼き付いている思い出が2つあります。

1つ目は、「合唱コンクール」です。私が、高校時代で初めて実行委員を行いました。自分自身が合唱部に所属していたこともあり、合唱コンクールにとっても熱が入っていました。合唱コンクールで歌った曲は、SEKAINOOWARIというアーティストが作成した『プレゼント』という曲です。「クラスみんなで1つの曲を作り上げた」ことが、私にとって、とても心嬉しい気持ちになり、達成感の気持ちでいっぱいになりました。合唱コンクール本番では、見事学年2位を取ることができました。今でもこのクラス全員で歌った曲を聴く



ことがあり、懐かしい気持ちになります。

2つ目は、「卒業旅行」です。卒業旅行は、台湾に行きました。私にとって飛行機に乗って海外に行くことが初めてだったので、とてもワクワクしたことを覚えています。卒業旅行初日は、悪天候で飛行機が大幅に遅延し、台湾に予定の3時間遅れぐらいに到着しました。初めての台湾料理や慣れない景色、そして初めての海外旅行で脳が興奮し現地では良く眠れませんでした。料理も慣れない味が多く、あまり食べられなかったことも印象に残っています。文化の違いなのでしょう、日本料理のおいしさ、ありがたみを改めてとても実感しました。今でも、高校時代の親友と台湾のことでよく話が盛り上がります。この卒業旅行から数か月後、新型コロナ感染拡大によりすべての行事が中止になりました。本当にギリギリでしたが海外に行く事ができたのは幸運でした。

現在は、都内の大学に通っていて、幼少期からの夢である「小学校の先生」になるために日々頑張っています。現在は対面授業がほとんどになり、コロナ前と同じように大学に通学しています。私は、「SMILY」という発達障害の子どもと遊ぶサークルや「フォークソング部」という軽音部のような部活にも所属しています。塾講師のバイトも行っていて、毎日とても充実してとても楽しいです。私は、今年度から大学3年生になり、4年時には「教育実習」と「教員採用試験」が待ち構えています。夢に向かって後悔のない充実した大学生活を送れるように何事も努力していきたいと思っています。



目白研心時代の友人と(全員成人しています)



研心ミニレター

(昨年のハガキひとことより)

●昭和 29 年度卒業

R・S

最近足腰が弱くなり杖無しでは歩けなくなりました。努力して外歩きを頑張っています。懐かしい母校に出掛けられますように。。。

●昭和 31 年度卒業

Y・S

いつもお知らせ下さりありがとうございます。私も90才近い年齢になりましたが今のところ元気に同年代の友人と病気の話になると仲間外れになることしばしばです。とはいえ寄る年波には勝てなく明日のことはわかりません。同窓会の益々の発展をお祈りしています。

●昭和 32 年度卒業

S・T

昭和32年卒業83才私が入学時期は学生数の少なく確か普通科・商業科、2クラスでした。でも楽しい高校生活を送る事が出来ました。現在の目白研心中・高等学校の目ざましい発展、より喜んで応援したい気持ちです。歳ですが脚、腰強く元気に頑張っています。

●昭和 32 年度卒業

T・K

表紙のレイアウトとてもいいですね。ありし日の学校生活が偲ばれます。在校中は國学院と共同学舎でした。校庭も2分の1づつ使用、歌手の山田真二さんがおりました。教室は私達屋根裏でしたよ。ご自愛くださいませ。

●昭和 34 年度卒業

M・S

旧目白学園の女性教師(97才)を囲み男性教師(85才)私(81才)あと教え子さん(70才代)と年に数回集まり円型校舎落合遺跡、古い校舎には桜吹雪などなど話題はつきず楽しいひとときでございます。母校の益々のご発展を祈っております。

●昭和 34 年度卒業

N・I

出席したいしたいと願いながら雑事に追われています。そして次回こそと思っていましたら思わぬ病に～。残念です。続け！続け！いつまでも目白のあったか同窓会！！

●昭和 35 年度卒業

K・H

毎年同窓会会報をお送りいただきありがとうございます。他の事は忘れてしまっている事が多いのに校歌だけは覚えていて会報を頂くたびに家族の前で歌っております。いつまで経っても青春です。

●昭和 35 年度卒業

E・U

80才を過ぎ終活を始めなくてはと思いつら日々過ごしています。コロナ禍で毎年会っていた同期の友人数人ともなかなか会う事が出来なくなり一寸辛いです。電話や手紙ではなく直接顔を見て話したいです。

●昭和 36 年度卒業

K・K

卒業してから 60 年、円型校舎、森林等々、環境の良い学校でした。一昨年行ってみてビックリ！あまりに変わっていて駅から学校迄の坂道だけは相変わらずでした。

●昭和 40 年度卒業

K・K

同総会事務局の皆様方にはいつもお世話になり心よりお礼申し上げます。緑多き新装の母校懐かしくいつかお伺いしたく存じております。今後も学舎が若人の礎にとお祈りいたします。

●昭和 37 年度卒業

K・I

もうと言うか、まだと言うか 78 歳まだ仕事をしています。春に沈丁花が咲くと目白の坂の沈丁花を思いおこします。天候不順な折から皆さまお体大切にしてください。

●昭和 40 年度卒業

K・S

14 歳上 (90 歳) の姉も同窓生です。重遠、ふゆ先生ご夫妻の校長室でお話をしたり～と思い出話を聞きます。その姉もコロナ禍でなかなか会えずにいます。

●昭和 37 年度卒業

Y・T

会長様はじめ役員の皆様ご苦勞様です。ワクチン注射で大変な思いを致しました。孫も皆成人になり社会人、大学生にと成長し私も 79 才となり残りの人生をどの様にするか考えています。何かのお役に立つといいなと思います。お花が好きなので勉強もいいなと思っています。

●昭和 41 年度卒業

H・A

中井の駅から毎朝六年間一緒に通学した朋友とは、あと数か月でお互い後期高齢者となりますが、今日はどの坂で行く？と朝の挨拶が楽しかった中の思い出の一つです。今でも大の仲良しして何でも話せる大切な友です。

●昭和 38 年度卒業

K・K

お便りを頂く度に楽しかった学生時代を思い出します。今は庭で夏野菜を育て四季折々の花を植えて草取りをし、きれいになった庭を眺めて幸せを感じています。目白学園は私にとって心の故里です。

●昭和 41 年度卒業

T・I

会報をありがとうございます。表紙の写真を見て当時の面影などないので驚きました。卒業して半世紀以上もたったのですものね。当時の学友、円型校舎、遺跡など懐かしく思い出されます。

●昭和 42 年度卒業

H・K

中・高・短大と目白一筋、今 73 才目白の揺ぎ無い厳しさは今、自分に責任を持つ強さに置き換えられています。会報と共に佐藤重遠先生との思い出がよみがえって来ました。(喜び)ありがとうございます。



●昭和42年度卒業

M・N

いつもお知らせありがとうございます。母校が来年創立100周年だそうで私が高校に入学した年に創立40周年の記念品としてトレイをいただいたのを覚えています。最近年齢を重ねると体力の衰えを感じフィットネスに通い始めました。(母校のように100才を迎えられます様がんばります。)

●昭和42年度卒業

K・K

連絡ありがとうございます。元気でやっております。子供達も独立してそれぞれの道を歩んでいます。主人と2人で健康で穏やかに過しております。時々目白学園を思い出しく思います。セーラー服に赤いリボン黒いリボンを着けていた頃、楽しかった学園生活、本当にありがとうございました。

●昭和43年度卒業

Y・Y

所沢に住んでいるので実家(沼袋)に行くときや新宿に行くときは西武新宿線に乗るのでいつも母校を見ながら思い出、マスクの中の口が笑ってゆるんでいます。早くコロナのない日々になるように！皆様のご健康をお祈りしています。

●昭和43年度卒業

T・E

早いもので72才となりました。5年間中井まで通った日々が懐かしいです。コロナですが40年勉強した声楽が生きがいでマスクをしつつ歌っております。平和を祈り時々アヴェマリア(カッチーニ)を口ずさみます。

●昭和43年度卒業

Y・M

私が目白学園を卒業して早や54年の年月が経ちました。世の中は新型コロナ感染の影響で行動が狭まる。あってはならないロシアとウクライナ戦争、孫も三人(長男に一人、娘に二人、皆男の子です)。目白研心高等学校の発展を心よりお祈りします。

●昭和45年度卒業

S・S

卒業と同時に難病にかかり障害者となりましたが結婚、出産し2児の母、4人の孫が。。。孫も大学生、地元を離れ都会人になりました。今は病気の会の全国会副会長をしながら難病患者の作品展示会を20年やっています。車椅子に乗りながら全国飛び回っています。

●昭和46年度卒業

S・H

70才の歳に初めてカヤックに主人と乗りマングローブを探検。カヤックの乗り降りに歳を感じます。(涙)同総会スタッフ様コロナ禍、呉々もご自愛くださいます様に。

●昭和47年度卒業

Y・M

同総会事務局の皆さま毎回大変お世話になり有難うございます。卒業して半世紀(商業科)が過ぎ今までに何年かに一回1.2組合同クラス会を開いてきましたが2018年秋が最後になりました。(香川雅則先生)人とのコミュニケーションがこれ程までに楽しく思い出を膨らませてくれることに感謝しております。(最初から幹事を務めてました)一日も早く元の生活に戻れるよう、皆様の健康をお祈りしております。



●昭和 48 年度卒業

K・N

毎年会報をお送りいただきありがとうございます。旧目白学園のことが、この会報を読むと懐かしく思い出されます。“楽しい一時を” ありがとうございますました。

●昭和 48 年度卒業

N・Y

卒業して半世紀になります。高校生から4才の孫が8人います。高峰高原、志賀高原、赤倉のスキー教室など貴重な経験をさせて頂きました。白いブレザーが自慢でした。目白学園大好きです。ミニレターで懐かしい名前を発見しました。

●昭和 50 年度卒業

K・H

中・高と目白学園で過ごし6年間バレー部で汗を流しました(4姉妹共)。円型校舎、落合遺跡、ポプラ並木が続く校庭、中学では珍しいお花や礼儀作法の授業等、どれも私にとって懐かしい大切な思い出です。結婚42年目、この5月に主人が旅立ちました。淋しいけれど悲しいけれど残された子、孫と共に頑張って生きてゆきます。皆様もどうかお元気で。

●昭和 52 年度卒業

K・A

円型校舎、たて穴式住居、ポプラ並木、懐かしい思い出ばかりです。今はフラワーアレンジ・生け花・プリザーブドフラワーの教室を運営するかたわら、孫育てに奮闘する日々です。63才!! まだまだ現役!! 皆様もお身体をご自愛されて頑張ってください。

●昭和 53 年度卒業

Y・N

卒業から45年の月日が経ちました。今も我が家にはセーラー服(上)白ブレザーが残っております。共学になりましたが、女子制服は変わらずに着用されてます事にうれしさを感じます。

●昭和 54 年度卒業

K・K

クラスLINEで時々おしゃべりしています。還暦過ぎても皆、あの頃のまま。楽しいです。

●昭和 54 年度卒業

N・O

毎号楽しく拝読させて頂いております。「同窓生からのお便り」はもちろん「ミニレター」で知ってお名前の方のご活躍を知り、元気をもらい知らないお名前の方のレターもとても刺激になります。今春から介護予防のサポーターとして活動しています。自分の今にも将来のためにもとても役立っています。

●昭和 54 年度卒業

K・K

東日本大震災をきっかけに産業カウンセラーの資格を取り心理士として仕事を始めて6年。50才過ぎてから天職と出会いました。生涯を通して人の役に立てるようこれからも精進してまいります。

●昭和 55 年度卒業

T・T

同総会会報毎回楽しく読ませていただいております。今回の「同級生からのお便り」に阿部加津代様のお名前を発見してびっくり。中学時代同じクラスでした。旧姓を載せていただいたのでわかりました。むうちゃんは大泉学園で私ことのもんちゃんは練馬で窪内は秋津でよく3人で帰りました。ご活躍何よりです。又、研心ミニレターにも同じクラスの芝田尚子様(旧姓堀兼様)のお名前を見つけ懐かしい気持ちで一杯になりました。私も元気にしています。10年前よりランニングをはじめ毎年名古屋ウイメンズマラソンに参加しています。共に元気に還暦を迎えられたことに感謝です。

●昭和55年度卒業

Y・S

学校名も変わり、男子との共学となり淋しい気がしておりましたが「同窓生からのお便り」拝読し、月日の経過と共に懐かしく、声まで聞こえてくるようでした！すてきな笑顔をありがとう！

●平成1年度卒業

K・K

目白学園を卒業して30年以上の月日が経ちました。今でも時折高校時代の友人と会うとあの頃に戻った様に話がつきません。目白学園の益々のご発展をお祈りしております。

●昭和57年度卒業

M・O

毎年高校野球の都選抜大会の試合結果を見る時に息子2人の出身校プラス我が母校も加わる事になりました。私の在学中は女子校で女子ばかり数百人の学校でしたので今はとても不思議な気持ちです。

●平成3年度卒業

M・N

大病を患い入院、療養生活が続いた時期もありましたが現在は復活。仕事と趣味の家庭菜園で充実した日々を過ごしています。

●昭和57年度卒業

H・Y

4年生を頭に孫が4人になりました。先日大切に保存しておいた制服を孫に見せたところカワイイ!!と絶賛でした。その後、本当にババ着てたの?の質問に2人で苦笑しました(^_^)

●平成5年度卒業

Y・T

子供がやっと年少さんになり、自由な時間ができると思いきや習い事や園の行事で今までより忙しくなりました。それでも空いた時間は映画やランチで息抜きしています。

●昭和59年度卒業

K・T

同窓会会報いつも楽しみに拝読しております。皆様近況やご活躍を見識させて頂く良い誌面と存じております。私もコロナ禍で自営業、頑張っております。皆様もどうぞお身体大切に。。。今後共宜しくお願い致します。

●平成6年度卒業

H・U

野球部の活躍が楽しみです。年々部員が増え、毎年注目選手が現れます。現在群馬に住んでおりますが春夏秋冬東京都大会が始まると東京に住む父が新聞の対戦表を送ってくれ一緒に応援しています。母校の野球強豪校の仲間入りを楽しみにしています。がんばれ!! 目白研心!!

●昭和63年度卒業

M・S

目白学園高等学校を卒業し、幼い頃から目指していたバレエ界へ飛び込み主人と出会い2人で共にあきる野市でバレエスタジオをスタートして24年。娘は今22歳になりバレエ界でダンサーをしています。

●平成7年度卒業

A・M

緑の多い自然に恵まれた街に住んでおります。子供は小学校ではヤギを飼ってました。目白の都会とは思えない閑静な環境を思い出します。よい中・高生活を過ごさせていただきました。心から感謝しております。

●平成7年度卒業

S・O

仕事と子育てに奔走し40代最後の歳となりました。目白では書道部と合唱部に所属し、20代は書道と歌で楽しい経験を沢山しました。50代が目前となり新しいことも始めたいし目白の仲間と集まって音楽も再始動したいし、一人で黙々と筆も取りたい。どう生きるかワクワクしています。

●平成8年度卒業

Y・S

退職された先生、久保多賀子先生と載っておりとても驚きました。高3の時の担任の先生でした。目白へ遊びに行けばいらっしゃると思いついていたので月日の経過を感じました。お友達にも会いたいなあ。。

●平成8年度卒業

M・N

高校のチア(ポラリス)同級生とは今でも定期的に会っています。私の子供も3人中2人が成人を迎えポラリス友人の子供が目白に通っていたりといつまでも仲良くしております。やはり中・高時代の友人は一生です。

●平成14年度卒業

T・S

昨年第3子を出産し現在育休を取得し子育て奮闘中です。子供の成長を見逃したくないということもあり、長めに休み育児を楽しんでおります。長女が来年、小学校に進学。そろそろ母校に連れて行って見せてあげたいな。という思いが強くなってきました。

●平成15年度卒業

S・F

親しみのある校章の封筒を見ると嬉しく懐かしく思います。第2体育館の改修を見て、25年前に中学のエアロビを習った時を今でも覚えています。QUEENの曲を聞くと杉沼先生の声と共に体が動いてしまうのは私だけじゃないはず…(笑) コロナが収息したら子供と共に母校を訪れたいです。

●平成17年度卒業

K・M

現在、学習塾に勤めております。度々、目白の案内が来る度に懐かしんでおります。中々コロナの影響で目白に足を運ぶことができませんが、生徒よりどの様な状況なのか聞くのをいつも楽しんでおります。

●平成20年度卒業

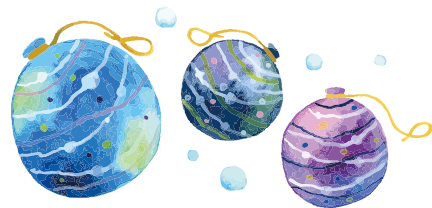
E・M

会報を見て当時の担任の先生が退職された事を知りました。私が在学中の先生がどんどん退職されコロナも相まってなかなか目白へ遊びに行きづらくなってしまい残念です。今では4才と0才の男の子のお母さんをしています。当時の自由奔放な生活をしていた私を知る先生方には「あなたがお母さん？」と驚かれますがなんとか毎日声を張り上げながら「人」を育てています(笑) 先生の大変さが今になってよ〜く身に染みてわかりました。

●平成21年度卒業

F・E

長女が3歳、次女が1歳になりました。目白生の時に仲良かった友人2人が次女と同年の子を出産し、今では毎週のように集まって育児の話や目白の思い出を楽しく語っています。いつか子供たちが目白で同級生になったら素敵だね。と妄想しています(笑)



●平成24年度卒業

A・I

お知らせありがとうございます。昨年退職し現在保育士の仕事に就いております。先日、保育士資格試験があり、その試験会場が目白大学でした。久しぶりに訪れた母校は記憶と同じく緑にあふれた心安らぐ場所でした。無事、試験に合格し、新たな人生の一步を踏み出せるよう、これからも頑張っていります。

●平成25年度卒業

D・T

共学2期生として入学した私は今年度で卒業から10年になります。社会人になって数年が経ち仕事も少しずつ板についてきました。目白にいた頃は体調悪くして入院したり体育の時に大きなケガをしたり色々ありましたが、教員職の方々のサポートもあって無事に卒業できて感謝しております。今後もしよろしくお願ひ致します。

●平成27年度卒業

A・S

紆余曲折を経て現在は大学院に通っています。通学の際に西武池袋線を利用していますが、時折目白生をお見かけする度に懐かしく思います。コロナが落ち着きましたら皆様にお会いしたいと思っております。

●令和3年度卒業

Y・O

目白研心を卒業し現在は大学で経済学を学んでおります。目白研心で6年間学んだ事が大学生活においても活かされていると日々実感しております。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

●令和3年度卒業

Y・S

大学生活も2年目となり、対面授業が再開したことでキャンパスも賑わうようになりました。高校に引き続き書道部に所属し沢山仲間に囲まれて楽しい毎日です。目白でお世話になった先生方と同じ教壇に立つことを目標に勉強に励んでいます。

●令和4年度卒業

S・K

友人づくりから少々苦戦し新しい希望にあふれていた大学生活はスロースタートとなりました。やっと友達ができはじめ、より一層豊かな大学生活になりそうです。



同窓会総会のはがきの近況報告欄にコロナ禍の中、たくさんのコメントをいただき有難うございました。

今年度は100周年を記念する特別号としてカラー版で見応えのある会報となっております。

同じ時代を共に過ごした同窓生同士、また時代は違えど学園の様々な思い出を共有できる同窓生の憩いの場が「研心ミニレター」です。

多くの方々に楽しみにご覧いただいております。ぜひ、これからも皆さまの近況をお知らせください。お待ちしております！



同窓会を支えてくださる皆様

同窓会の仕事を円滑に行うためになくてはならない方々が目白研心中学校・高等学校事務室の皆様です。

堺事務室長をはじめ11名の職員の皆様が、いつも明るく爽やかな笑顔で迎えてくださいます。

同窓会の役員が学校に常駐することが難しいため事務室で同窓会宛の郵便物を預かっていただいたり、電話対応をしてくださったりと、学校と同

窓会とのパイプ役を担ってくださっております。

また、ホームページ関連で同窓会を支えてくださるのは、職員の安藤さんです。ホームページのレイアウトや更新方法についてその時々にご相談させていただいております。

様々な形で同窓会を支えてくださる事務室の皆様と安藤さんには、心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございます！



事務室の皆様

目白研心中学校高等学校 2023年度 説明会 日程 (予定)

中学校説明会日程 (要予約)

	日 程	開始時間
第1回	5月13日(土)	10:30
第2回	6月10日(土)	10:30
オープンキャンパス	7月15日(土)	10:30
第3回	8月23日(水)	10:30
第4回	10月14日(土)	14:00
第5回	11月4日(土)	14:00
授業見学会	11月14日(火)	10:30
入試体験会	12月23日(土)	10:30
第6回(小6のみ)	1月13日(土)	10:30
第7回	3月23日(土)	10:30

高校説明会日程 (要予約)

	日 程	開始時間
第1回	6月17日(土)	14:00
第2回	7月29日(土)	10:00 14:00
第3回	8月26日(土)	10:00 14:00
第4回	9月30日(土)	14:00
第5回	10月28日(土)	14:00
第6回	11月25日(土)	14:00
第7回	12月2日(土)	14:00

※中学校・高校の各イベントは約1か月前より本校HPからお申込みが可能です。定員に達した場合は締め切らせていただきます。ご予約をされていない方は入場できませんので、予めご了承ください。

卒業生子女入学金優遇制度

目白研心中学校・高等学校同窓生のお子様や兄弟姉妹が、目白学園に設置する学校（目白研心中学校・高等学校、目白大学、目白大学短期大学部、目白大学大学院）に入学される場合、**入学金が全額免除になります！** 詳しくは下記入試窓口までお問い合わせ下さい。

（ただし目白学園幼稚園卒園生は対象外です）



▶大学、大学院、短期大学部の入試について

目白大学入学センター

TEL : 03-3952-5115

MAIL : colkoho@mejiro.ac.jp

▶中学校、高等学校の入試について

目白研心中学校・高等学校 広報部

TEL : 03-5996-3133

MAIL : jhkoho@mejiro.ac.jp

目白研心中学校・高等学校にお子様の入学をお考えの方へ

学校説明会等の日程は、目白研心中学校・高等学校のホームページからご確認ください。

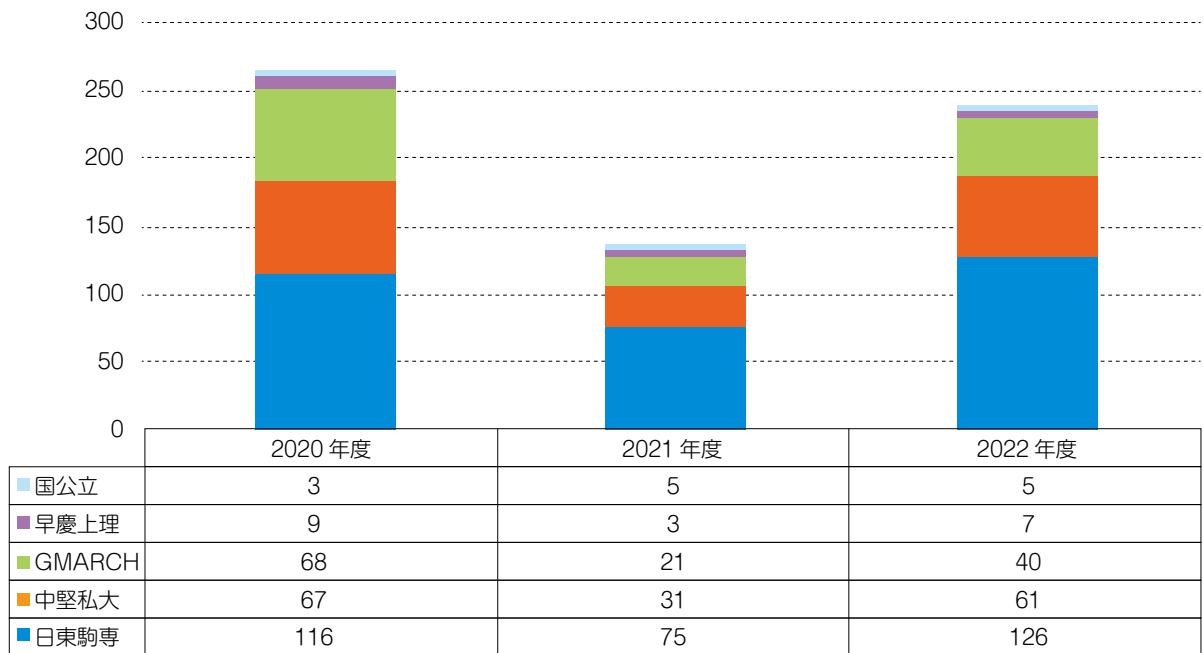
（開催日の一か月前よりホームページからお申込みが可能です）



2022年度 進路状況

進路指導部主任 矢部隆宜

■過去3か年の合格実績（国公立～日東駒専まで）



■ 日東駒専 ■ 中堅私大 ■ GMARCH ■ 早慶上理 ■ 国公立

2022年度 国公立合格校：東京学芸大学、東京藝術大学、千葉大学、金沢大学、埼玉県立大学

* 中堅私立大学：成蹊大学、成城大学、明治学院大学、獨協大学、國學院大學、武蔵大学

■合格大学群と実数

早慶上理		GMARCH		中堅私大		日東駒専	
早稲田大学	0	学習院大学	4	成蹊大学	14	日本大学	33
慶應義塾大学	0	明治大学	10	成城大学	5	東洋大学	44
上智大学	4	青山学院大学	5	明治学院大学	8	駒澤大学	11
東京理科大学	3	立教大学	8	獨協大学	11	専修大学	38
—	—	中央大学	5	國學院大學	9	—	—
—	—	法政大学	8	武蔵大学	14	—	—

■総括

2022年度はコロナの影響はほぼなくなり、通常通りの入試となりました。2020年度とほぼ同じ卒業生数だったため、全体的には似た結果となりましたが、GMARCH以上の大学群合格数はやや低くなっています。全国を受験生の上位大学進学志向が強まっていることもあり、今後この大学群の合格数をどう伸ばしていくかが進路指導部の課題となりそうです。合格実績詳細は学校HPでご確認ください。

今年度は100周年という記念すべき年です。学校行事もコロナ前と同様に実施される予定です。多くの卒業生の皆様にお会いできる機会も増えることと思います。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

研心トピックス

中高運動会

5月10日(水)、国立代々木競技場第一体育館にて、中高運動会を実施しました。

新型コロナウイルスの流行に伴う規制が緩和されたことにより、今年度の運動会はようやくコロナ禍以前の形態で行うことができました。

徒競走や台風の目、色別対抗リレーでは接戦が繰り広げられ、騎馬戦では機動力や団結力を生かしたプレーがみられるなど、生徒たちは各種目に全力で取り組んでいました。

また、いずれの競技でもクラスや学年の垣根を越えて、熱の入った応援が飛び交っており、生徒それぞれが目一杯運動会を楽しんでいるように感じました。



選手宣誓



応援合戦



棒取り

目白学園創立 100 周年記念事業【3 弾】

目白研心中学校・高等学校は、コース別の特色ある指導と入試改革により、10年間に300名以上の生徒が増加しました。そのため数年前から5号館及び9号館の教室不足で、大学校舎を借りての授業も続きましたが、この度、7号館中央階段から北側が目白研心中学校高等学校エリアとして、5教室と職員室に改修され、中学1、2年生の教室及び中学職員室として活用できるようになり、2022年4月、胸弾む新入生を迎えることができました。

目白研心中学校・高等学校の定員増加に伴い、7号館中央階段から北エリアを目白研心中学・高等学校のエリアとして、南エリアを心理カウンセリング学科のエリアとして改修工事を行いました。

また、居室の改修に合わせて、共用部、トイレおよび地下1階のポローニアⅡ(カフェテリア)のリニューアル工事を行いました。

地下1階のポローニアⅡは、子ども学科のおかもとみわこ先生のタイル画を生かした明るい色合いに改修し、Caféのような風合いの家具を選定することで、落ちつく快適な空間を演出しています。湿気の溜まりやすい地下のエリアには、大型の除湿器を設置し、カビの繁殖を抑制することで地下エリアの環境の維持を図っています。改修した居室は新型コロナウイルス感染防止対策として適切な換気ができるよう、機械換気設備を設置しました。また同時に自然換気を積極的に行えるよう全室に網戸の設置を行っています。



中学校教室



地下1階ポローニアⅡ



心理カウンセリング学科
カウンセリングルーム



1階南側男子トイレ

■インフォメーション



■退職された先生方

松下 秀房 校長
古屋 眞澄 教諭 (国語科)
藪内祥司子 教諭 (国語科)
齋藤 圭介 教諭 (数学科)
赤澤 光郎 教諭 (数学科)
里見 心 教諭 (外国語科)
武井 一視 教諭 (保健体育科)

★100周年記念号、いかがでしたでしょうか?「特別な会報にしたい!」という思いから1年前より準備を進めてまいりました。

同封の「承認ハガキ」に必要事項をご記入の上、ご返送くださる際に感想や近況をお知らせいただけますと幸いです。お便りの中から抜粋したコメントを、次回以降の研心ミニレターにてご紹介させていただきます。

★ホームページを立ち上げて5年、多くの皆様にご覧いただき「とても便利で見やすいですね」との嬉しいご感想をいただいております。さらに見やすく充実させたホームページをぜひご覧ください。これからも励んでまいります!

★会員の皆様より「友人の連絡先を教えてください」とご連絡をいただくことがあります。基本的に、連絡先は個人情報保護の観点からお教えすることができません。また、お知りになりたいご友人の住所が不明になっている場合は、それ以上調べが付きません。

皆様には大変申し訳ございませんが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

■編集後記

創立100周年おめでとうございます。目まぐるしく変化する時代の中で、母校がまだ同じ場所にあることになんとかほっとしております。卒業して数十年経ち、縁あって同窓会のお仕事に関わらせていただくことになりました。当時のことを思い出してみると、とても楽しく充実した日々を送っていたと思います。そしてそれが今の自分の出発点になっているのだと感じております。

平井 めぐみ

昨年は大学生活という新たな環境の中で、多くの不安を感じながらも新しいことに挑戦できた1年間となりました。先日、元担任の平塚先生にお会いしました。三年間、私の担任をしてくださった平塚先生との約一年ぶりの再会では懐かしさだけでなく、安心感を覚えました。私たちの高校生活の約半分は新型コロナウイルスの拡大により制限されてしまいましたが、今でも目白研心での思い出は私の人生にとってとても大切なものになっています。そんな母校が100周年を迎えるということはとてもおめでたい事だと感じます。目白研心高等学校のさらなる発展を心から願っております。

杉浦 皇汰

目白研心中学校・高等学校同窓会
令和5年度 同窓会会報 新版第1号
(通号32号)

発行日：令和5年7月10日
発行：目白研心中学校・高等学校同窓会
住所：〒161-8522
東京都新宿区中落合4-31-1
電話：03-5996-3131
FAX：03-5996-3066

※本書を無許可で転写複製することを禁じます。
印刷：株式会社 愛甲社